

## 2021 年度 「中国 大連通信」

2021 年 11 月 19 日

駐大連北九州市経済事務所

◆所長 尾崎 英一 ◆副所長 金森 淳

◆副所長 呂 俐 ◆職員 畢 偉宸

金森 Email: [fusuo Zhang@kitakyusyu-dl.com](mailto:fusuo Zhang@kitakyusyu-dl.com)

### 新型コロナ禍における大連渡航に関するレポート

駐大連北九州市経済事務所・副所長に着任いたしました、金森と申します。新型コロナウイルスが世界各地で猛威を振るうようになってから早1年半以上が経ち、収束の見通しが立たない中、本年6月末に大連へ渡航しました。

渡航後、中国・大連の政府指定ホテルにて4週間もの徹底した集中隔離を経た経験等について今回少しでもお伝えできればと思います。

#### ■大連渡航前

私は4月の人事異動に伴い、株式会社福岡銀行から公益社団法人北九州貿易協会に出向し、中国・大連渡航に向けた準備を進めることになりました。

昨今のコロナ禍による就業VISA取得に要する書類及び手続きの複雑化などにより、現地事務所の手助けがあっても、渡航までにおよそ3ヶ月もの時間（通常は1ヶ月程度）を要してしまいました。コロナ禍における駐在員の派遣は諸外国においても同様に通常の何倍もの時間がかかっているのが実情です。

#### ■大連渡航について

渡航日：2021年6月24日

搭乗便：JL829便 9:35発-11:45着

隔離ホテル：大連昱聖苑国際ホテル（Yushengyuan International Hotel）

隔離日数：28日間（隔離終了日7月22日）

中国への渡航においては、現在コロナ対策の為、日本国内にて取得したPCR検査および抗体検査の陰性証明書のデータをスマホで中国領事館に申請し、認証を得る「健康コード」およびスマホアプリ「wechat」から申請する「中国税関健康申請」の2種類が必要となります。日本国内の搭乗時に「健康コード」を確認され、大連空港に到着時に「中国税関健康申請」を確認される流れとなります。

実際に渡航する便の搭乗口では、乗客の中にも防護服姿の中国人を見かけ、機内はほ



ぼ満席でした。

※左上：成田空港の様子（コロナ禍においても大連へ渡航する人の長蛇の列）

右上：国際便の一日の出発便が一覧できてしまうほど本数が少ないモニター

### ■大連空港到着後

到着後ターミナルに入ったすぐのところの健康申告エリアでゴム手袋が用意されており、それを付けたうえでパスポートや中国税関健康申請、搭乗券などを準備し、アクリルパネル越しの中国人の空港職員に健康状態を申告します。手元にファイルがあり「直近14日間に熱などの症状がないか、感染が疑わしい人との接触はないか」などの項目が英語・中国語・日本語で明記されており、「YES」or「NO」で申告するように言われます。（もちろん全てNOではありませんが）

申告が終わると名刺大の紙を首にかけるように言われ、PCRの検査キットを渡され、PCR検査に向かうように言われます。（もちろん全て中国語であり、聞き取れなかったのですが、身振り手振りで大方分かりました。）

PCR検査の場所はブースに分かれており、順番に並びます。何分かで呼ばれてブースに入り、検査キットと首にかけているものを渡し、まず鼻に長い棒を差し込まれます。日本でも同様の検査を受けましたが、中国の検査のほうが断然痛かったです。鼻が終わると喉に棒を差し込まれました。口を大きく開けさせられた上で、奥のほうをグリグリされるため、嗚咽が出そうになりました。日本での渡航前の1回を含め1ヶ月で計6回PCR検査を受けましたが、大連空港での検査が一番痛かったです。鼻、喉のPCR

検査を終えると、今まで使っていたマスクを捨て、中国のマスク（N95のような立体型マスクで息苦しい）に換えるように渡されます。（ここでは英語で「Change!」と言われました。）

PCR 検査を終えると、入国審査です。中国語で「居住者用レーン」「特別レーン」と表示されている二つのレーンがあり、「外国者レーン」は×印で閉ざされていました。居住者ではないため特別レーンで黄色の入国カード、パスポートなどを入国管理官に渡します。マスクを外し、顔認証などを受けると、入国カードの裏側の白紙の部分の指さしされながら「China Phone Number」と返されたため現地の社用携帯の番号を記入して渡しました。（通常の渡航時ではおそらく要らないと思いますが、コロナ対策のため？）

入国審査を終えると、機内預け入れのスーツケースが置いてあり受け取ります。その後、税関検査があり、荷物をベルトコンベアーの上に乗せ、チェックを受けます。

税関検査後、ブースにて入国者情報登録カードを提出し、待機の後、隔離ホテル行のマイクロバスに乗り込みます。乗り込む際に荷物に消毒液がかけられました。乗車したのは6名であり、乗客の間隔は十分にあり、密にならないように工夫されていました。窓は開いており、運転手との間はビニールで分離されていました。

※「NO PHOTO」と空港内撮影禁止の表示あった為、空港内の写真はありません。

### ■隔離ホテル到着後

大連空港から4キロほど離れた郊外にある「大連昱聖苑国際ホテル」が私の隔離ホテルでした。（日本人向けの隔離ホテルとして大連にはもう一つ「大連聖汐湾度假ホテル」というのがあります。）

料金はクレジットカード（JCBも利用可能）で支払い可能であり、28日間の宿泊代として15,400元（日本円で約27万円）、期間中のPCRおよび抗体検査代として574元（日本円で約1万円）を支払い後、隔離スケジュールの書かれた書類を受けとり、部屋に向かいました。

<隔離中トピックス>

- ・隔離後3日目・14日目・21日目・28日目に部屋の入口にてPCR検査を受けます。14日目には同じく部屋の入口で立った状態で血液検査（抗体検査）も受けます。
- ・部屋の扉にはセンサーがつけられており、十何秒か開けっ放しにすると、アラートが鳴ります。（子供が身に付けるような防犯ブザーの音に近いです。音が大きいのでビックリします。）
- ・食事は3食部屋の前においてある椅子の上に置かれます。置かれた後はロックをされます。朝食：7:30頃 昼食：12時頃 夕食：17時頃に配給されます。
- ・チェックインの翌日に大量の飲料水が配給されます。シャンプーの小瓶やごみ袋、歯ブラシ等も配給されます。



※左上の写真にある椅子に弁当が配給されます。

※右上の写真にあるように飲料水が配給されます。計算としては一日2本分。

28日の隔離を終えて外に出られたときは普段日本で生活する上では感じる事が無い、「自由に外出できる」ことの喜びをととても感じました。

#### ■結びに

上記のような経緯を経てようやく着任することができました。

現在、上海事務所との統合により、弊所が本市の中国ほぼ全土での実務活動をカバーしております。最近の中国でのコロナの市中感染に伴い、国内でも出張等が制限されている現状ではありますが、実施可能な範囲で最大限の本市PRや中国の情報収集に努め、両国間の往来や経済活動の本格的な再稼働を見据えて、活動を継続していきたいと思っております。

中国関連でのお悩みやご相談等ございましたら、お気軽にご連絡下さい。